

「発達障害・精神疾患がある子とその家族がもらえるお金・減らせる支出」

マンガと解説で正しく楽しくわかる 青木聖久・日福大教授の新著出たよ

おはようございます、こんにちは、こんばんは。みんながつどえるミニコミ誌『みんな』編集部の天地成行です。今回は、特別に紙面を作りまして、いつも大変お世話になっている、愛知県の日福祉大学福祉経営学部の青木聖久教授が、講談社より新著『発達障害・精神疾患がある子とその家族がもらえるお金・減らせる支出』を刊行されました。すばらしいです。わたしは個人的に10年前に傷病手当金からの障害年金切り替えで、そうがはげしくなり……。

講談社、定価1600円（税別）

最初は、はじめに新聞記者スタイルで書きます。八章構成、全207ページで、最新の統計データや国の制度もわかりやすく漫画を交えて解説している。青木聖久教授の特に有名な、ご専門でもある障害年金、障害者手帳、など国や自治体から申請すれば得る事ができる手当や制度を詳しく解説している。個人的に天地成行が青木先生の著作を読むとき、

漫画は、「かなしろにゃんこ」。

「いつも青木先生は、家族と当事者に本当によく寄り添われている学者さんだなー」と痛感する。当事者が陥りやすい、自分自身への卑下や差別、自己の能力と経済状態などについてのつらさに寄り添った文章を書いてらっしゃる、つたわりやすいのである。それが第一章の「なぜ経済的な支援が必要か」を読めば理解にみなさんも至り。次章以降の「では、自分ほどの支援や手当、制度にあてはまり、いかにしてそれ

」さんが担当

ば、初診日認定で過去の病院に電話をかけてみるも、当時の老主治医が亡くなっていたりとかアクシデントもある。「病歴・就労状況等申立書」。これ、わたしの場合、「一人24時間サンダルマラソン」「0泊2日歩いてタクシーでひた走る九州旅行」「地球防衛軍と化し夜中大雨サンダル地球アイシテル行進」「やはり歩いてサンダル島根県境で真つ暗山道警察保護」案件の4つを一カ月で行ない、その後精神科入院をしたが、その前後

を獲得できるか」という読み進め方につながる。障害年金に関していえば、申請するにあたり結構ハードルがあることは個人的に10年前に体験した。障害基礎年金に該当するか、障害厚生年金に該当するかも、元会社員だった自分はずいぶん、気をもんだし、払い込んだ年金が受給要件を満たしているか、さらには病院をいくつも変わ

と、り患21年目でも過去のことは書いていてイタイものであります。みなさんもこの本をぜひ読んでいただき、ぜひわ



り患21年目でも過去のことは書いていてイタイものであります。みなさんもこの本をぜひ読んでいただき、ぜひわ

り患21年目でも過去のことは書いていてイタイものであります。みなさんもこの本をぜひ読んでいただき、ぜひわ

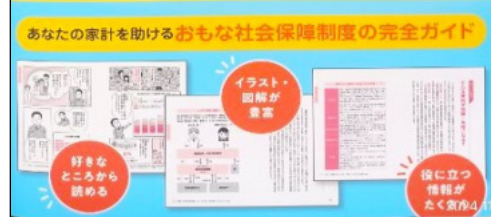


らだと御縁を大切に天地成行でした。

たしのようなきつい経験をせず、障害年金をはじめ、障害者手帳などをうまく取得していただき、生活の質を上げ、家庭や社会にどういう形にか、ご自身が楽しくマイペースで有意義な毎日を過ごすことができることを切に願います。

今回ご紹介の本は、1月12日に発売。関東では、紀伊国屋書店や三省堂などで既に発売中。Amazonは予約を受け付けてます。山口県のような地方には、順次納入されると講談社の担当の方からうかがいました。

それでは、こころとか



おまけ) 過去に天地成行が行なった講演会で、将来精神保健福祉士を目指す学生が「障害年金」に関して私が語ったところにひっかかりを感じて感想をくれました。その方の感想をみると、プログラムからひっばってみましよう。

「障害を有しているという以前に一人の人間であるという事を忘れてはいけない」

統合失調症の方にこれ

まであった経験がなく、イメージが持てないままのようにつまらなかつたが、面白いお話を聴かせていただけたりするなど、知らなければ統合失調症の方だと気づかなかつたのではないかと感じた。沢山の苦勞をされてきていらっしゃるのだと思うが、あのように肩の力を抜いてお話を聴かせていただけると、統合失調症に対し、変に構えずに興味を持てるように感じた。

他の学生さんがされた質問の中に、妄想に関するものがあつたが、実際にどのような対応するかが当事者にとって良いのか、という事は、当事者にしかわからない場合がある為、将来ソーシャルワーカーとして働くときにも役立つような貴重な体験であつたのではないかと感じた。

天地さんがお話しされたことの中に、主語が「統合失調症の人」ではなく「自分自身」として扱われるとうれしいとい

けを求めることが難しい人にはかなりハードルが高い精度のように感じた。

お話の中で、大学院に向けた勉強が新聞社の入社に生きたという事があつたが、仮に私が卒業後に福祉の仕事につかなかつたとしても、障害やその他の困難を抱えた人に対して偏見を持たず、理解を示すという点で現在の学習は役に立つと考える。福祉の分野では、社会そのものが困りごとを抱える人のバリアになるといってお話をよく聞くため、まずは自分が理解しようとする事から、全ての人が暮らしやすい社会を

目指していけたらと思う。

他の授業で、中途障がいを受容の過程について学んだが、実際に障害を有した方の話を聴くことで、以前に比べて実感も伴って理解できたように感じた。他に習ったことに関しても、ただ知識として知っているだけでなく、実際にその障害を有する方と関わったりすることで自分の中で理解できるようになると思う。このように、障害の当事者の方と関わる機会に積極的に参加することで、障害とのかかわり方などを知っていききたいと思う。

(I)

みんつど号外

青木聖久教授の新刊が出たよ号

編集：みんつど編集部